

我ら真心もて 教えの任に当らん

学校長 横山 豊



この言葉は、本校教員の教育における姿勢を説いた言葉であり、1903年10月18日、佐々木裁縫女学校開校式において創設者の佐々木とよ先生が読まれた式辞の一部です(以下、原文のまま抜粋)。

そも岐陽の地山川の眺めにとみ…(中略)…裁縫の道は…(中略)…徳育の資となること多し。積るに思慮を要し、裁つに謹慎なるべく、縫うに前後上下の秩序あり、一筋の糸もて細かに綴るは直く正しき心と表し、おもて裏なくとじ合するは屋漏に愧じぬ徳に譬うべし。若しそれ針の道に於て曲れる行いあらば、袖袂合わずして己を肩身狭むるに至る。諸嬢深く之を心にとめてゆめ忘れ給わざれば、**我らも亦真心もて教えの任に当らん**ことを誓う。(以上)

明治36年(1903)10月18日
佐々木裁縫女学校開校式辞
創立者 佐々木とよ



現代語にしてわかりやすく書けば、「そもそこ岐陽の地は、山を流れる川の眺望も美しく…(中略)…裁縫の道は…(中略)…徳育の助けとなることも多い。見積もることは深い思慮を要し、裁断は慎み深くあるべきであり、縫うには前後上下の秩序があり、一本の糸をもて細かに綴るということはまっすぐで正しい心と表現することができ、おもて裏なくとじ合わせることは人目につきにくいところも含め恥じることのない徳を積むことに例えられる。もし針の道において曲がった行いがあれば、袖と袂が合わず自らの肩身を狭くすることになる。みなさんが深くこのことを心にとめて決してお忘れになることがなければ、**私たちもまた真心をもって教えの任に当たる**ことを誓います」となります。

多くの名言には多々前文があります。学園に勤める教員の心の持ち方を書いたこの名言にも、やはり前文があったのです。

教育の本質が見事に述べられています。「常に慎み深く、正しい心を持ち、表裏なく正直に生き、人目につかないところでも徳を積んでいく努力を惜しまないこと」「やましい生き方をすれば、必ず自らに報いとして返ってくる。」

生徒の皆さんがこのことを忘れず日々精進すれば、私たち教員も真心を持って教えの任に当たります。

私たち鶯谷中学・高等学校の教員は、今年10月18日に学園が創立120年の節目を迎えるに当たり、この教育に対する真摯な姿勢を改めて大切にしていきます。

皆さんも建学の精神「自立・自尊」のもと日々勉学に励んでください。